

山梨県

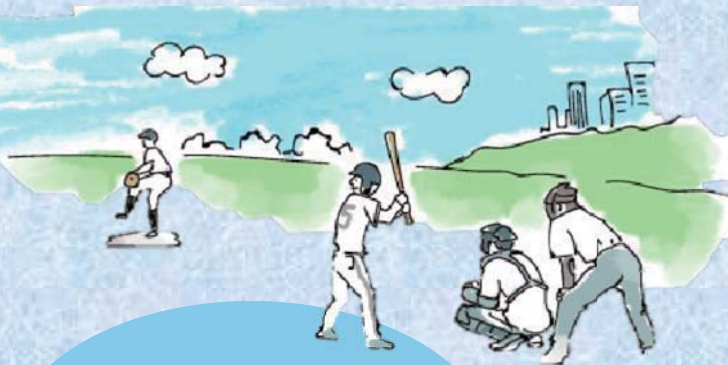
ふ え ふ き し

笛吹市

第2期

まち・ひと・しごと創生総合戦略

～ 子育て世代・若者に魅力的なまちへ～



豊かな自然の中
充実した新たな
暮らしができる

移住⇒P.4へ ▶



子どもが自ら学ぶ力を
家庭、学校、地域の連帯に
より育むことができる

教育⇒P.3へ ▶

子育て世代・ 若者に 魅力的なまち

親子の交流や情報交換
をしながら、みんなで
子育てができる

相談・交流⇒P.5へ ▶



災害の少ないまちで
安心して家族と過ごす
ことができる

防災・防犯⇒P.7へ ▶



子育てと両立しながら
働くことができる

仕事⇒P.6へ ▶

令和2年3月

笛吹市の魅力

待機児童ゼロ！

本市には、保育園、幼稚園、認定こども園が合計27か所あり、現在待機児童はゼロとなっていて、安心して子育てできる環境が整っています。

また、急な用事などで子どもを預けたいときには、一時預かりやファミリー・サポート・センターといった制度があり、働きながら子育てがしやすい環境の確保に努めています。



保育園・保育所

安心の地域医療！

本市には、総合病院が8院、医院・診療所が32院、産科が1院、歯科が32院あり、そのうち小児科専門医のいる医療機関が5院あります。地域医療が充実しているため、いざというときにも安心です。

また、出産直後のお母さんをサポートする

ための「産前・産後ケアセンター」があり、利用の際には行政の補助があります。



医療

ちょうどいい田舎暮らし！



本市は、「桃・ぶどう日本一の郷」を宣言している果樹地帯として自然豊かな地域です。



一方で、市内には商業施設や飲食店が点在しているため、適度な田舎の暮らしを感じられます。また、公園や広場が26か所、県の森林公園のほか、石和温泉駅近くに2.25haの公園整備を進めていて、様々なイベントに活用していく予定です。



住まい

選べる子育て支援センター！

本市には、7か所の地域子育て支援センターがあり、子育て親子の交流の場を提供するとともに、育児に関する相談等を受けています。センターの利用は無料で、子どもや保護者の希望に応じて、利用したいセンターを選ぶことができます。



地域子育て支援センター

地元の雇用を創出！

市内には、9か所の工業団地があり、山梨県と連携した助成金制度や市独自の奨励金交付制度を活用し、企業の新規進出や事業拡大を支援し、雇用の創出に力を入れています。

毎年新規の企業が進出を続ける中、工業団地のエリアを拡大し、更なる企業誘致を進めています。



仕事

▶ 1 総合戦略とは

平成26年に「まち・ひと・しごと創生法」が制定され、国、都道府県、市町村それぞれが人口減少の克服や地域活性化を目的にした計画として「総合戦略」を作ることになりました。

本市では、平成27年度に「笛吹市まち・ひと・しごと創生総合戦略」(第1期計画)を策定し、5年間の取組を進めてきたところです。令和2年度からは新たな総合戦略(第2期計画)に基づき、取組を強化していきます。

▶ 2 本計画の趣旨

第1期計画では、幅広い分野を対象にまんべんなく取組を実施しましたが、第2期計画では、これまでの人口の推計等から(※P10参照)、より減少が進むと予想されている子育て世代や若者に焦点をあてた計画を策定することとしました。これからの時代を担う子育て世代や若者のニーズに応じた取組を構築し発信することで、本市の人口減少に歯止めをかけ、地域創生につなげていきます。

▶ 3 計画期間

本計画の対象期間は、令和2年度から令和6年度までの5年間とします。

▶ 4 計画の目標と取組分野

「子育て世代・若者に魅力的なまち」を目指して、5つの分野における取組に力を注ぎ、本市の魅力や強みを更に磨き上げていきます。



▶ 5 取組の内容と目標値の設定

5つの分野ごとの取組内容は、市内の子育て世代の方たちが何を求めているかを調べ、選定しました(「笛吹市子ども・子育て支援に関するアンケート結果報告書」や各種調査、文献より抽出)。また、各取組の進捗度合いを測るため「重要業績成果目標(KPI)」を設定し、本計画の最終年度に当たる令和6年度の目標値を明記しました。なお、KPIは各取組の評価・検証に用い、年度ごとに進捗状況を確認しながら、取組内容の改善を行います。

子育て世代・若者の
ニーズを把握



ニーズに対応するための
取組内容を選定



目標値(KPI)の設定

なお、次ページ以降に記載の取組で  のマークがあるものは、新規の取組となります。そのため、取組に対するKPIの現状値は、未実施「-」となっています。



1 教育

既存の関連事業

- ・小学校外国語授業アシスタント事業…ボランティアによる外国語授業の支援。
- ・放課後子ども教室事業…放課後に学習指導や体験学習が行える場を確保。
- ・青少年育成事業…青少年の健全育成に向けて、講演会や防犯パトロールの実施。
- ・小中学校ICT関連機器等導入事業…情報機器を整備し、授業内容を充実。

+さらに

自宅での学習を手助けしてほしい。



1-1 自主学習の取組の推進（学校）

子どもが自ら学ぶ力を高めるため、自主学習の方法を工夫します。

家庭学習の指導を工夫し、児童、生徒が主体的に学ぶ態度を育みます。その一つとして、タブレット等のICT整備を進め、家庭学習の振り返り等に関する効果的な活用を検討していきます。また、学力向上検討委員会等で各校の取組について、情報共有や研究等を行います。

重要業績成果目標(KPI)	現状値	目標値 (R6)
自分で計画を立てて家庭学習をする児童生徒の割合	65%	70%

1-2 自主学習の環境の確保（家庭）

自主学習の習慣が定着するよう、支援や啓発を行います。



家庭における学習環境づくりを目的に、学校と家庭が連携しながら家庭学習の習慣化に取り組みます。また、身近に自主学習を行える場所をつくり、多様な学習機会の提供ができるよう、NPO法人、市民活動団体と市役所若手職員との協働による取組を行います。

重要業績成果目標(KPI)	現状値	目標値 (R6)
多様な主体との協働による学習支援	—	4回/年

1-3 地域参加による教育の推進（地域）

地域の団体や人材と連携しながらイベントを企画し、学びを育む場を創出します。

男女共同参画推進委員、市民活動団体、NPO法人などと協働しながら、学びを育むイベント(防災キャンプなど)を企画し、継続的に取り組みます。また、育成会、子どもクラブと連携し、自然体験やスポーツ体験を行うとともに、教員の退職者と連携し、放課後の時間を活用した体験学習等を実施します。

重要業績成果目標(KPI)	現状値	目標値 (R6)
子ども向け体験講座の参加者数	1,800人/年	2,300人/年

子どもが自由に集える学習の場や親以外の大人と気軽に話せる場が欲しい。





2 移住

既存の関連事業

- ・空き家バンク制度…空き家の売買、賃貸情報を提供し、マッチングを実施。
- ・企業立地促進助成事業…助成金と固定資産税免除による企業誘致を推進。
- ・子育て世代定住支援事業…子育て世代が住宅取得する際のローンへ補助を実施。
- ・笛吹市農業塾推進事業…農業講習や農機具のレンタルを行い、新規就農者等を支援。

+ さらに

県外からの移住者
(子育て世代) 同士で
知り合う機会が欲しい。

2-1 移住者同士のネットワーク構築

移住をしてきた親同士が気軽にコミュニケーション
を交わせる場の構築を目指します。

移住相談会を行う中で、移住者を呼び込み、定住につながるよう先輩移住者や
地元住民を交えたネットワークを構築するなど、移住におけるサポート体制を整え
ます。SNS等のインターネットでの交流をはじめ、実際に顔を合わせて交流が行え
るサロンを開いていきます。

NEW

重要業績成果目標(KPI)	現状値	目標値 (R6)
移住者の交流人数	-	50人(累計)



2-2 教育移住志向者へのPR

豊かな自然と暮らしやすいまちで、のびのびと教育
が受けられる環境をPRします。

自然豊かな環境のもと、
子どもにより良い教育を
与えられる場所へ
移り住みたい。

NEW

教育志向を持つ首都圏の移住希望者に向けて、本市では、豊かな自然に囲ま
れた環境で、のびのびとした人間性を育む子育て、教育ができることをアピールし、
移住促進に取り組みます。保育園、小学校、学童保育など子育てに焦点を当てた
移住ガイドブックを作成し、市外の子育て世代へアプローチしていきます。

重要業績成果目標(KPI)	現状値	目標値 (R6)
子育て世代の移住世帯数	-	20世帯/年



上手く仕事が見つかる
か不安。移住に関心はあるが
生活に見合った収入が
得られるか心配。

2-3 移住者に向けた就業支援

雇用の創出や地元企業と移住者とのマッチング支
援を強化します。

移住者の受け入れに積極的な企業を発掘し、県の移住者向け就職マッチング
サイト等への掲載を促します。また、企業誘致の推進により、雇用の創出を図ると
ともに、移住セミナーにおいて市内外の企業を招き、移住者向けの就職ガイダ
ンスを開いたり、就農希望者へは、農業大学校や農業生産法人等を紹介します。

NEW

重要業績成果目標(KPI)	現状値	目標値 (R6)
移住者の県内就業者数	-	10人/年





3 相談・交流

既存の関連事業

- ・妊婦・乳幼児相談事業…全出生児対象に赤ちゃん訪問を行う等、専門家による相談や訪問をはじめとした包括的な支援を実施。
- ・教育相談事業…教育相談員、自立支援相談員による各種相談の対応。
- ・図書館管理運営事業…おはなし会等の子育て支援イベントの実施。

+さらに

もっと子育て中の親が集まれる企画などあればいい。検診等では交流がしづらいので、交流を目的としたイベントがほしい。



3-1 親同士の交流の場の創出

親同士の交流を望む方たちが、つながりを持てるような機会を提供します。

地域子育て支援センターでは、親子の交流イベントが定期的に行われています。センターにおける利用者の利便性が、さらに向上するような取組を促したり、アドバイスを行うとともに、子育てガイドブック等を通じ、センターの周知を行います。また、図書館で行われる親子イベントでも、親同士の交流が広がるよう工夫を図ります。

重要業績成果目標(KPI)	現状値	目標値 (R6)
子育て支援センター利用者数	33,305 人 (延べ) /年	45,435 人 (延べ) /年

3-2 子育て情報の共有化

笛吹市での子育てにおいて、参考にできるよう、身近な子育ての知識、情報を提供します。

市内の子育て先輩ママ・パパたちが困ったときはどうしたか、体験エピソードを聞きたい。

NEW

「夜泣きがひどいときは」「急な発熱や嘔吐のときはこうした」のように、多くの保護者が体験すると思われることについて、笛吹市の先輩ママ・パパたちはどう対応したのか、子育て情報の共有化を図ります。一般的な子育て情報だけでなく、地域に応じた身近な子育て情報を、子育て広場アプリや広報紙等で提供します。

重要業績成果目標(KPI)	現状値	目標値 (R6)
子育て情報の提供数	—	12 件/年



気軽に子どもが遊べるような所があるといい。

3-3 遊びながら健やかな体を育む取組

子どもたちに健全な遊びを提供し、心身の健康増進を図る場・機会をつくります。

遊びを通した学びの場として、市内6か所にある児童館のイベント内容を工夫します。これまでのイベントを検証しつつ、継続した取組を行うとともに、対象年齢を細分化することで、新たなイベントを企画していきます。また、関係団体と連携し、子どもの発達段階に応じた運動プログラムである「アクティブ・チャイルド・プログラム」の普及、啓発のための指導者養成講座等を行います。

NEW

重要業績成果目標(KPI)	現状値	目標値 (R6)
児童館でのイベント回数	77 回/年	80 回/年





4 仕事

既存の関連事業

- ・ホームスタート事業…未就学児がいる家庭に、研修を受けた子育て経験のあるボランティアが訪問支援を実施。
- ・学童保育クラブ事業…昼間保護者が留守の家庭の児童に、放課後の生活の場を提供。
- ・男女共同参画推進事業…男女の協力体制、ワークライフバランスの確立を推進。

+さらに

急な仕事のと
きに短時間子ども
を見てもらいたい。



仕事で送迎が
できず、塾や習い事
を断念した。難しい手
続きなく簡単に預けら
れるといい。

4-1 多様な一時預かり体制の構築 4-2 送迎のサポート

地域の協力を得る中で、子育て世帯の困りごとの解決に向け支援をします。

現在、仕事など急な用事が出来た時の子どもの預かりは、保育所における一時預かり事業をメインに実施していますが、併せて、ファミリー・サポート・センター事業※1において、一時預かりや送迎への対応を充実させていきます。一時預かりや送迎を

手伝ってくれる地域の協力会員の確保に向け、ホームページへの事業案内等を工夫したり、協力会員の養成方法の改善等を検討し、人材確保に努めます。

重要業績成果目標(KPI)	現状値	目標値 (R6)
協力会員数	204人	250人(累計)

※1 ファミリー・サポート・センター事業って



育児を手伝ってほしい人と、育児を手伝いたい人をつなぐ仕組みです。事前に会員登録をしておけば、子どもの一時預かりや送迎などで誰かに手伝って欲しいときに、センターが有償で手伝ってくれる人を紹介してくれます。生後2か月から小学生の子どもがいる、市内在住、または市内に勤務している方が対象です。また、利用料については、市で補助を行っています。

4-3 病児預かり体制の充実

共働き世帯の子育てを支援するため、子どもが体調不良になった際の預かり体制の強化を目指します。

現在、病児の預かり体制が広域化されたことにより、県内の病児・病後児保育施設をどこでも利用できるようになりました。しかし、市内には、そのような施設がないことから、市内在住の子育て世帯が安心して子育てできるよう、市内へ病児・病後児保育施設の設置を目指します。

急病の際に対応して
もらいたい。市内に病
児対応の施設がない



重要業績成果目標(KPI)	現状値	目標値 (R6)
市内の病児・病後児保育施設数	0か所	1か所



5 防災・防犯

既存の関連事業

- ・防災体制整備事業…各避難所の運営体制を検討・整備。
- ・LED防犯灯交換費補助事業…地域の防犯灯のLED化を補助。
- ・笛吹市通学路交通安全プログラム…警察や学校と連携し、通学路の危険個所の特定とその対策を実施。

+ さらに

子どものためにどういった防災準備をしておくべきなのか知りたい。

5-1 子育て世代に向けた防災情報の提供

子どものいる家庭に必要な防災情報を、講座や情報媒体等で発信します。

子育て世代を対象として、乳幼児を同伴していても聞くことができる防災講座を行っています。乳幼児の健康診査に合わせて開催する等、対象者が参加しやすい工夫を行います。また、講習内容を情報媒体で発信するなど、日常的に防災情報を得られるようにしていきます。

重要業績成果目標(KPI)	現状値	目標値 (R6)
子育て世代の防災講座受講者数	43 人/年	497 人/年

5-2 子育て世代における災害不安の解消

子育て世代の意見や要望を把握し、避難所の運営に反映します。

子ども連れで避難所へ行っても大丈夫か不安。

NEW

各指定避難所の設備、公的備蓄品について、子育て世代に役立つものを一覧表として作成したり、日中や平日に防災講座を開催するなどし、本市の防災体制を知ってもらう中で、子育て世代の意見や要望を反映する仕組みを構築します。

重要業績成果目標(KPI)	現状値	目標値 (R6)
避難所運営委員会への子育て世代の参加者数	—	各避難所運営委員会へ1名以上の参加



物騒なニュースを見るたびに、目が届かないところでの子どもの安全が心配。

5-3 子どもに関する防犯体制の強化

関係機関との防犯連携を強化し、児童生徒の防犯意識を高める取組を行います。

NEW

防犯強化を目的として、小学校ごとに、笛吹警察署、PTA、学校、自治会、市で連携した組織の設立を目指します。また、児童生徒自身の防犯意識向上のための講習や防犯マップの作製等を学校単位で実施していきます。

重要業績成果目標(KPI)	現状値	目標値 (R6)
新たな防犯学習実施数	—	14 回/年





6 基盤整備

6-1 子育て環境を補完する基盤整備

子どもから大人まで、安全で快適に通行ができるよう、道路・橋梁整備を行います(道路・橋梁整備は、アクセシビリティを高めることによる観光・産業分野等への効果も、同時に期待できます)。

また、駅周辺に公園をはじめとした地域活性化施設を整備し、駅周辺地域の振興を図る中で、親子の交流や憩いの場を提供します。

重要業績成果目標(KPI)	現状値	目標値 (R6)
駅周辺の地域活性化施設整備数	1 か所	3 か所

▶ 6 段階的なアプローチ

子育て世代や若者を本市に呼び込み、定住へつなげるに当たっては、県内外の人々を本市の認知度等に基づき分類し、アプローチをしていきます。また、既に本市に住んでいる方に対しても、笛吹市に住み続けたいと思ってもらえるよう取組を行います。

未認知層

笛吹市を全く知らない人へ、まず本市を知ってもらうための情報発信をしていきます。

知ってもらう

認知層

笛吹市のことを知っているが、訪れたことのない人に、足を運んでもらえるよう、SNSやWEBを使ったPRを行います。

訪れてもらう

交流層

観光等で笛吹市を訪れたことがある人へ、本市の魅力をより感じてもらうようなシティセールスイベント等の企画を行い、移住への足掛かりとします。

住んでももらう

定住層

笛吹市に住んでいる人へ、地元(市)に愛着をもってもらえるよう、母・父(自身)の自己実現等の機会を提供し、社会や地域との連帯感の醸成を図ります。

愛着をもってもらおう

市内

住み続けたい!

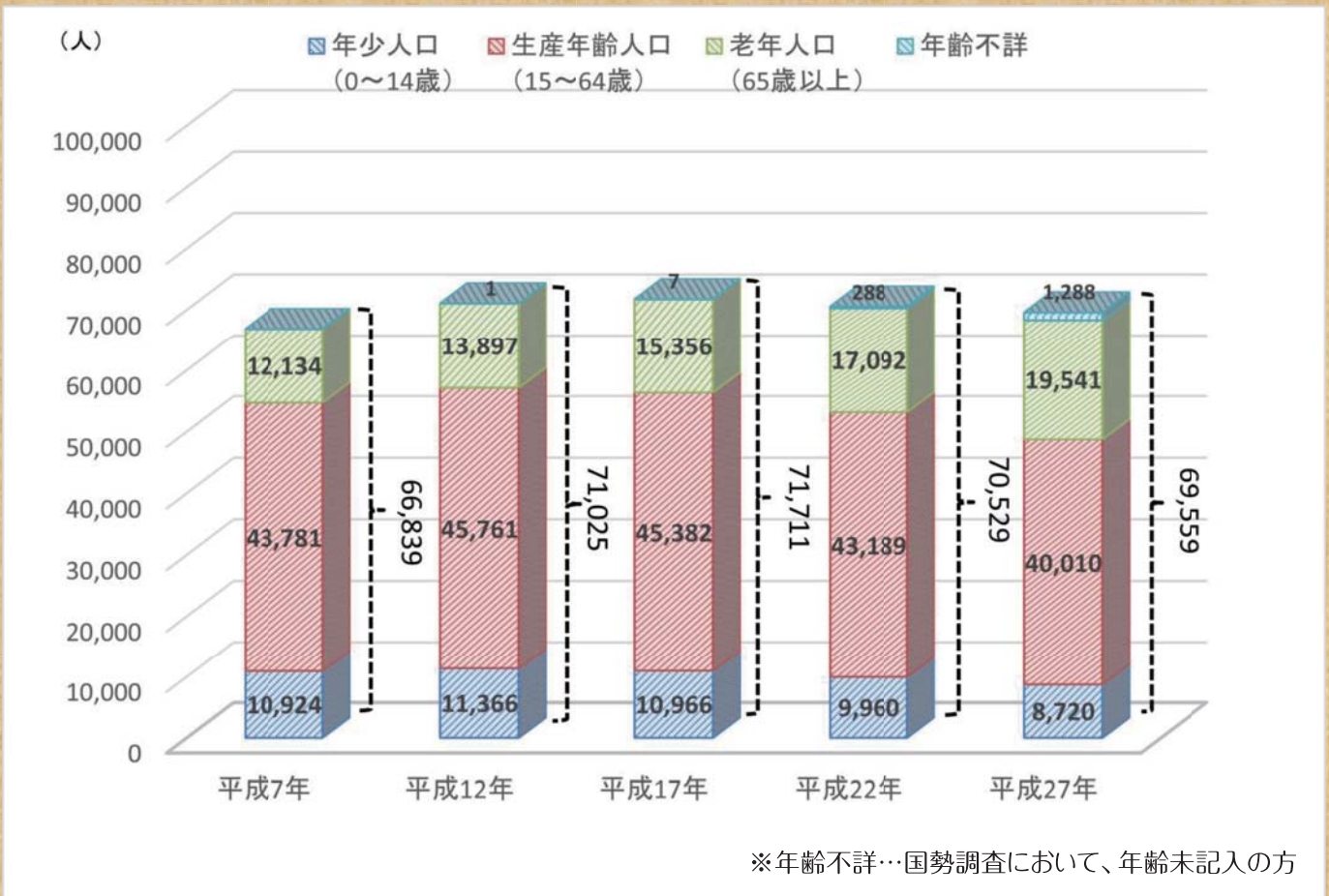
市外

住んでみたい!



参考1:本市の人口(現状)

国勢調査によると、本市の人口は年々減少しているが、年齢構成別にみると、年少人口(0歳～14歳)及び生産年齢人口(15歳～64歳)は減少傾向である一方、老年人口(65歳以上)は増加傾向となっており、典型的な少子高齢化の状況にあります。



参考2:本市の人口(展望)

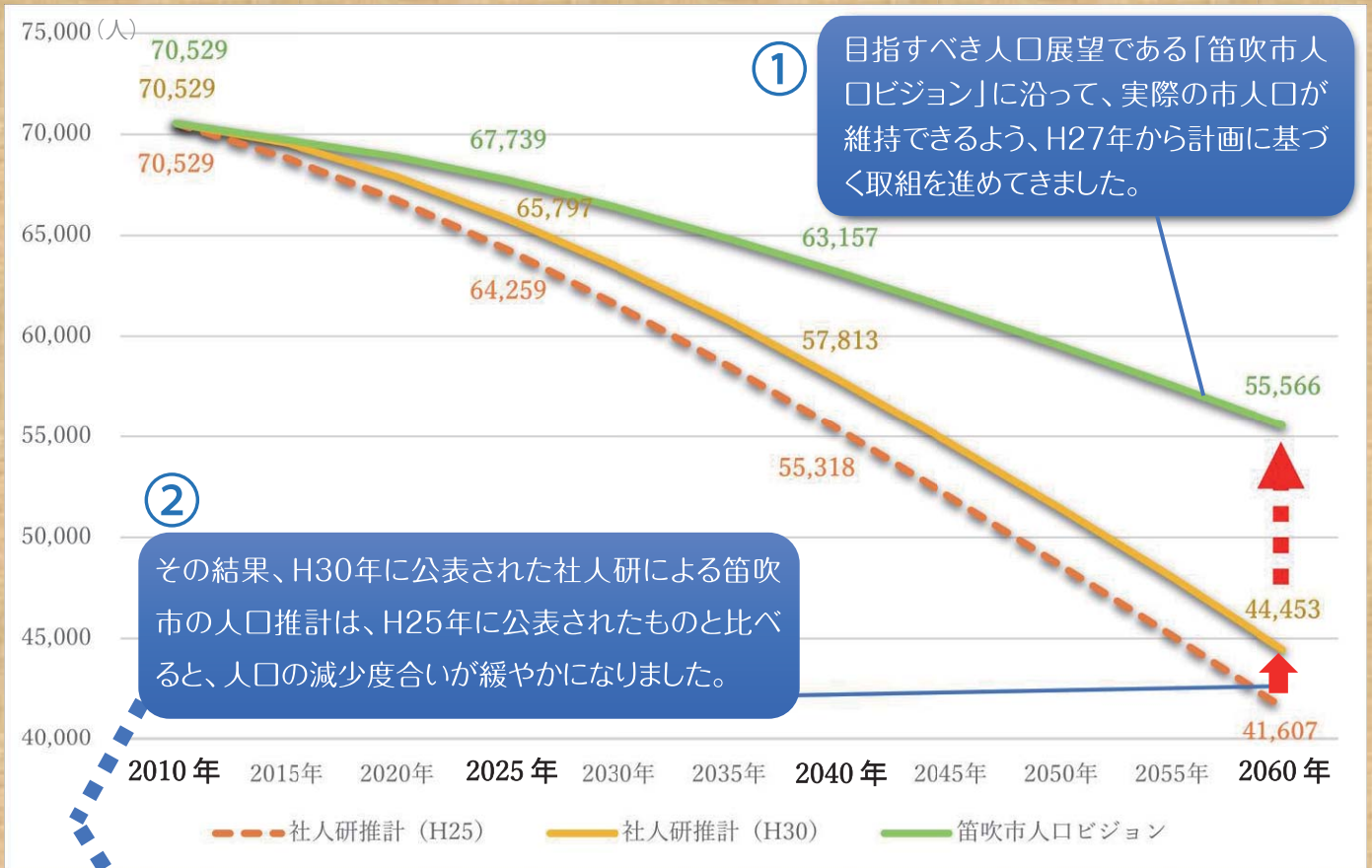
本市の人口は、人口問題の研究機関である国立社会保障・人口問題研究所(社人研)の推計によると、人口減少対策を講じず、現在の人口動向が続いた場合、2060年時点で41,607人になると予測されました。

この推計を基準に、人口減少対策を講じた場合の新たな推計を市独自に作成し、それを本市が目指すべき人口の将来展望「笛吹市人口ビジョン」としました。「笛吹市人口ビジョン」では、合計特殊出生率1.8を目指しながら、若者の転入促進・転出抑制を図る(20～49歳の転出超過を120人/年に抑制)ことで、2060年に市の人口55,000人を目指すこととしています。

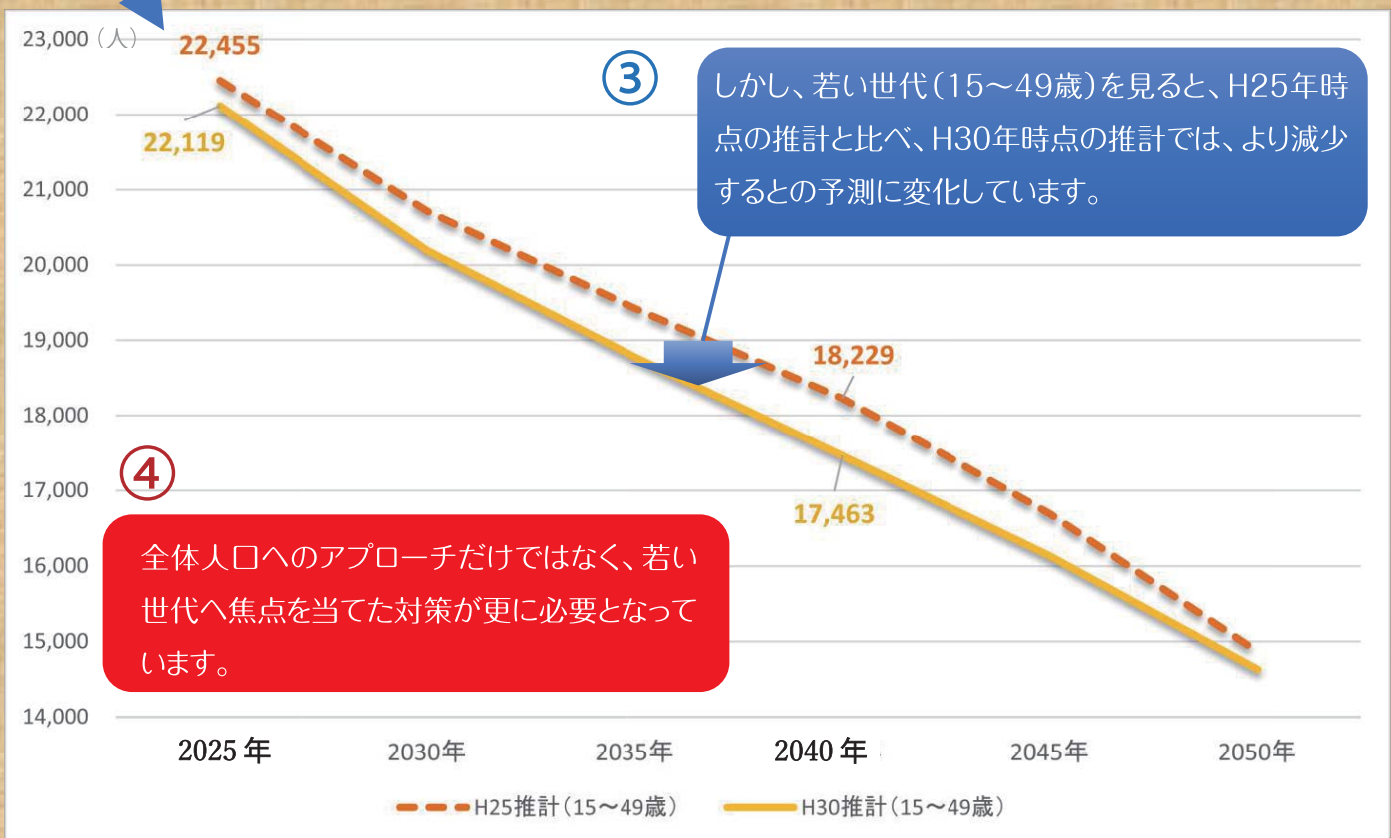
参考3:取組対象を子育て世代・若者にした背景

社人研による本市の人口推計の変化から、次のとおり分析を行い、取組の対象を選定しました。

笛吹市の将来人口の予測



若い世代の人口予測



8 計画体系図



9 笛吹市へのアクセス



問い合わせ先

笛吹市役所 総合政策部

政策課 政策推進担当

TEL:055-267-8960 (直通)

URL:[http://www.city.fuefuki.](http://www.city.fuefuki.yamanashi.jp)

[yamanashi.jp](http://www.city.fuefuki.yamanashi.jp)



笛吹市ホームページ



笛吹市あんしん子育て



移住ガイドブック